

## カービュー マーケットウォッチ (2013年5月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：兵頭 裕）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

### 乗用車全体で5カ月ぶりに前年を上回る！

13年 4月順位	13年 3月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(2)	↑	プリウス	トヨタ	18,417
2	(1)	↓	アクア	トヨタ	17,182
3	(4)	↑	ノート	日産	9,415
4	(3)	↓	フィット	ホンダ	9,176
5	(13)	↑	クラウン	トヨタ	8,181
6	(6)	→	ヴェイツ	トヨタ	6,904
7	(8)	↑	カローラ	トヨタ	5,954
8	(5)	↓	セレナ	日産	4,531
9	(7)	↓	フリード	ホンダ	4,183
10	(10)	→	インプレッサ	スバル	4,041
11	(12)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	3,712
12	(17)	↑	スペイド	トヨタ	3,542
13	(-)	↑	フォレスター	スバル	3,377
14	(15)	↑	スイフト	スズキ	3,363
15	(14)	↓	パッソ	トヨタ	3,262
16	(9)	↓	ステップワゴン	ホンダ	3,094
17	(11)	↓	デミオ	マツダ	2,792
18	(20)	↑	アルファード	トヨタ	2,728
19	(16)	↓	ヴォクシー	トヨタ	2,544
20	(21)	↑	ソリオ	スズキ	2,387

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で5カ月ぶりに前年を上回る！

貨物車を含めた全新車販売では8カ月ぶりのプラス

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した4月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は30万8556台、前年同月比は100.7%（貨物車、バスを含む新車総販売数は36万5165台、前年同月比101.5%）と、5カ月ぶりに前年を上回った。

その内訳は、輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（輸入車扱いの日産マーチ1719台、日産ラティオ538台、三菱ミラージュ820台含む）が17万1189台で、前年同月比97.9%、軽乗用車は12万937台、同101.4%、海外メーカー製輸入乗用車は1万6106台、同133.9%と、軽乗用車と輸入車が乗用車市場を牽引する状況となっている。日本メーカーブランド合計では軽を含めても、トヨタ、マツダ、スバル、スズキ以外は前年を下回っているが、東京モーターショーに向けてのニューモデルラッシュに期待したい。

軽乗用車を含む月間ランキングでは、「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」が1万8601台（前年同月比53.9%増）で08年11月以来のトップとなり、2位は「トヨタ プリウス（α含む）」1万8417台（同15.9%減）、6カ月連続トップを続けていた「トヨタ アクア」は1万7182台（同7.0%減）で3位にランクダウン。以下、「ホンダ N BOX（+含む）」1万6382台（同3.2%減）、「スズキ ワゴン R」1万3787台（12.7%増）、「ダイハツ ミラ（イース、ココア含む）」1万1848台（同23.8%減）、「スズキ アルト（エコ含む）」1万870台（同7.0%増）、「ホンダ N-ONE」9618台（12年10月発売）、「ダイハツ タント（エグゼ含む）」9532台（同29.3%減）と軽が続ぎ、10位にやっと「日産 ノート」が9415台（同180.3%増）でランクインと、トップ10を7モデルの軽が占める結果となった。

軽自動車は貨物車を含めた全体では15万2000台、前年同月比100.9%と3カ月ぶりにプラスに転じ（軽乗用車のみでは19カ月連続のプラスと好調を堅持）、4月単月として過去最高を記録した。

輸入乗用車は日本メーカー製を含む輸入乗用車全体でも1万9507台、前年同月比137.8%で、12カ月連続で前年を上回り、海外メーカー製輸入乗用車は今年1~4月累計でも8万2946台、前年同期比11.1%増と、軽を除く日本メーカー製乗用車の14.1%減を大きく上回る売れ行きになっている。海外メーカー製ブランド別乗用車ランキングではVW（フォルクスワーゲン）が3623台、前年同月比74.8%増で4カ月連続トップ、2位メルセデス・ベンツ2791台/同47.8%増、3位BMW（ミニを除く）2512台/同15.7%増、4位アウディ1864台/同35.4%増、5位ミニ1156台/同13.8%増と、トップ5は4カ月連続で変動はなく、いずれも前年を大きく上回った。

## ■ココも気になる！ その1

### 売れ行き好調の軽市場がさらに活発化

12年4月～13年3月の12年度合計で197万2601台、前年度比16.8%増と好調だった軽自動車市場。特に軽乗用車は157万1199台、同23.0%増と過去最高を記録した。そして13年度のスタートとなる4月も4月単月としては過去最高の15万2000台と高水準の売れ行きで、年初の176万～179万6000台と見込んだ年間販売台数を上回りそうな勢いになっている。

昨年6年連続の軽No.1となったダイハツは13年3月期の連結決算で、売上高、営業利益とも過去最高となり、軽の販売台数も過去最高の65万3000台。スズキは国内売上高が過去最高を更新したが、12年度の軽のシェアが6年ぶりに30%割れの29.7%にとどまったことから、13年度はシェア30%死守を目標に掲げた。軽が前年度比118.7%増の36万2000台と2倍以上も伸びた本田は、アコード、フィット、オデッセイと3/5ナンバー車のモデルチェンジが相次ぐことから、軽の販売比率が12年度の50%超から48%に下がるもの、軽の販売目標は39万6000台と2年連続プラスを狙うなど、軽トップ3の今後にかかる意気込みは激しいものがある。

しかし6月には日産と三菱が共同開発した意欲作、「デイズ/eK ワゴン」がデビュー。すでにエクステリアやインテリアデザインが公開され、リッター29.2kmというクラストップの燃費データが噂されるなど前評判は上々なだけに、先行予約分も順調に受注を伸ばしているようだ。もちろん軽トップ3も手をこまねているわけもなく、スズキは6月にも「スペーシアカスタム」を追加し、「ラパン」をマイナーチェンジ、ダイハツやホンダも東京モーターショー前後に「ライフ」や「タント」のモデルチェンジを予定するなど、日産/三菱の挑戦を受けて立つ構えだ。景気回復が本格化するなか、激戦区となる軽市場がどんな売れ行きになるか、目が離せない。

## ■ココも気になる！ その2

### Aクラスが好調のメルセデス・ベンツに注目

海外メーカー製輸入乗用車の勢いが止まらない。12カ月連続で前年を上回っているだけでなく、昨年4月はエコカー減税が新制度に切り替わったことで低水準だったこともあるが、33.9%増と高い伸び率となった。

ブランド別ではVWが前年同月比74.8%増とダントツだが、昨年の年間販売台数と12年度の累計販売台数でBMWから2位の座を奪還したメルセデス・ベンツも47.8%増と絶好調。今年1~4月の累計でも1万4578台、前年同期比14.4%増とBMWを上回る販売台数と伸び率になっている。

その要因は昨年4月にモデルチェンジした「Bクラス」と、今年1月に投入された新型「Aクラス」の好調さだ。Bクラスは12年度に8271台が売れ、12年度販売台数ランキングでは11年度の19位（2319台）から7位に大躍進。Aクラスも発売から約2カ月の受注が5000台超と好調だ。また最新の予防安全システム、レーダーセーフティパッケージ搭載の「Cクラス」が1月より納車が始まったが、これも堅調に推移し、12年度累計で、ライバルの「BMW 3シリーズ」を1274台上回る1万4408台で12年度ランキング3位につけた。

そして5月には「Eクラス」をマイナーチェンジ。マイナーチェンジとはいえ、新開発の2リッターターボと3リッターV6エンジンをはじめ、2000カ所以上の変更を実施。エクステリアもダイナミックなデザインになり、それでいて価格は据え置きと、まさにメルセデスの勢いを感じさせる内容だ。

メルセデス・ベンツは世界市場でも好調で、4月としては過去最高となる11万6500台強を販売。1~4月累計でも前年同期比4.6%増の47万5800台強（スマート含む）と好調で、日本でも新しいEクラス効果で、年間15%増を狙うという。メルセデスの売れ行きが景気回復の証となるか、要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 管理本部法務室（広報担当）（[pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp)）

TEL：03-5859-6158 FAX：03-5859-6180

---